

開かれた5枚屋根の展望休憩所



コンセプト

計画地である海軍壕公園の高台では、東シナ海や南部の市街地が一望でき景色を楽しみ人々で賑わっています。
 その一方で、太平洋戦争時には、日本軍の司令部が置かれ激しい戦場の地となった過去があり、現在では、慰霊の塔やビジターセンター、旧海軍壕などが整備され、過去の戦争の悲惨さや平和と向き合う戦跡公園として、記憶の継承とともに親しまれています。

過去のことを学んだその次は、いまについて考え、未来へ繋いでいく必要があります。
 そこで、おおらかに「いま」を受け入れ、のびのびと「未来」にも目を向ける展望休憩所の提案をします。

過去の戦争という歴史を乗り越えてこそその強い生命力とともに、平和を目指し、街も成長し、広がっていきます。
 那覇を中心とした市街地が一望できる高台であることを生かし、過去の人々が平和を思いながら築いてきた未来、つまり、「いま」を見つめる場所、また、ここから明るい「未来」を発信していくような象徴的な場所にしたいと考えました。

ダイアグラム



①展望、交流、憩い、平和のピースを用意します。



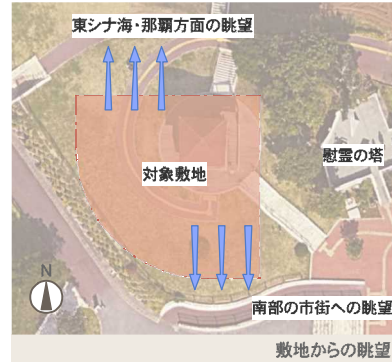
②ピースが集まり、木陰のような居心地の良い空間を生み出します。



③枝葉のようにピースを内側から外側へと開き、広がる形を作ります。



④開いたピースに勾配を設けそれぞれの空間に変化をつけます。



5つの屋根について

5つのピースをもとに、ゆったりと屋根が広がり、5つのエリアに分かれます。屋根は、樹木のようにこのびのびとした力強さを感じさせ、未来へと広がる象徴的な形となります。

*つながるエリア

ビジターセンター方面の利用者や遊歩道を歩いている人を導くように屋根を伸ばします。

*北側展望エリア

北側方面への展望に対し、人々を受け入れるように屋根を大きく開き、のびのびと那覇市街地を一望できます。

*憩いのエリア

屋根がスロープを利用する人を迎えるように広がります。訪れた人々が腰を下ろしてゆっくりと過ごせる芝生のゆるるベンチを設けます。

*南東側展望エリア

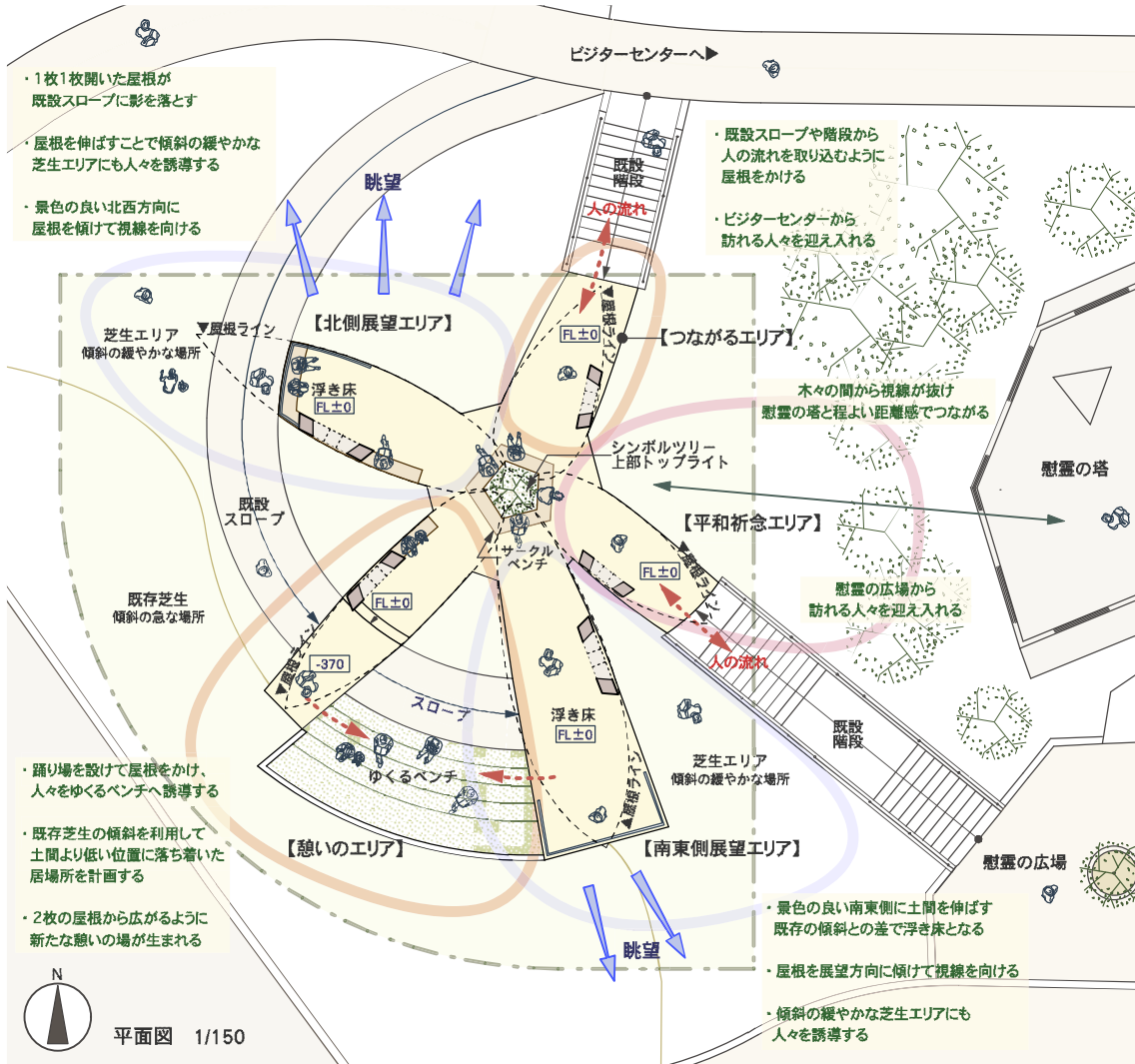
南側へ伸びる屋根とともに、床を張り出し、開けた空間で南部市街地を眺めることができます。

*平和祈念エリア

慰霊の塔、慰霊の広場から人々を受け入れるように屋根を広げます。



エリアについて



北側展望エリアの屋根を北西方向に傾けることで外部に開けた空間となり、既設スロープを利用する人のエントランスとしても機能します。1枚1枚開いた屋根が既設スロープに影を落とし、傾斜の緩やかな芝生エリアにも人々を誘導します。



現状のパノラマの景色を遮らないように柱を配置し、中央のサークルベンチからの眺望を確保します。トップライトと屋根の隙間から光が注ぎ、明るく見通しの良い空間となります。



エリア分けした5枚の屋根が枝葉のように広がり、訪れた人々を展望休憩所へと誘い込みます。



建築概要

階数：地上1階 床面積：39.35㎡
 構造：鉄筋コンクリート構造 屋根面積：74.62㎡
 最高高さ：4.00m

展望台は高台に位置するため劣化要因に配慮し、雨風などの自然の作用に強く耐久性の高い鉄筋コンクリート構造を採用します。

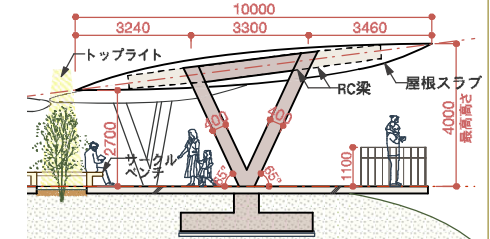
慰霊の塔や旧海軍壕に馴染む仕上げについて

屋根・軒裏：RC打放し補修+ピシヤン仕上げ+クリア保護塗装
 柱：RC打放し補修+フッ素系塗装
 床：RC打放し補修+ピシヤン仕上げ

慰霊の塔や旧海軍壕の印象に馴染むように、屋根は表面を研ってゴツゴツとさせるピシヤン仕上げを採用します。また柱は仕上げを変え、白系の塗装を採用することで屋根と区別させて柱の印象を和らげています。

構造計画

枝分かれた2本のRC柱を各エリアに配置し、5枚の屋根をそれぞれ独立した構造で支えています。屋根スラブの中央部は膨らみを持たせ、端部は薄くすることで構造的に負担が少なくコンセプトの形状と調和しています。



南東側展望エリア断面図 1/100